



自民党改憲案を読もう

自民党は昨年4月に改憲案「日本国憲法改正草案」を発表しました。総選挙での圧勝を経て活気づき、安倍首相は今回の参議院選挙で維新の会などとともに改憲派で多数をとって「ねじれを解消し」改憲に突き進もうとしています。維新の会のつまづきなどでややトーンダウンしたとはいえ、選挙結果次第で「改憲方針が信任を得た」とアベノミクスなどの人気取りと摩り替えて憲法改悪に向かうことは目に見えています。

その目指す内容はまさに「戦後民主主義」の全てをひっくり返しかねない大変なものです。



マスメディアはその内容をほとんど取り上げません。私たち自身がその危険な中身を読み取り、広く知らせていく必要があります。ぜひ改憲案を読みましょう。

◆前文から消されたもの

なくなったものは見えにくいので注意

<現行憲法前文>

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと

努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

<自民党改憲案前文>

日本国は、長い歴史と固有の文化を持ち、国民統合の象徴である天皇を戴く国家であつて、国民主権の下、立法、行政及び司法の三権分立に基づいて統治される。

我が国は、先の大戦による荒廃や幾多の大災害を乗り越えて発展し、今や国際社会において重要な地位を占めており、平和主義の下、諸外国との友好関係を増進し、世界の平和と繁栄に貢献する。

日本国民は、国と郷土を誇りと気概を持って自ら守り、基本的人権を尊重するとともに、和を尊び、家族や社会全体が互いに助け合つて国家を形成する。

我々は、自由と規律を重んじ、美しい国土と自然環境を守りつつ、教育や科学技術を振興し、活力ある経済活動を通じて国を成長させる。

日本国民は、良き伝統と我々の国家を末永く子孫に継承するため、ここに、この憲法を制定する。

▼このように基本的人権の意義付けが削除され、逆に国民に対して、国や伝統を守る義務を課しています。現憲法には3つの義務しかありませんが、自民案は21も国民に義務を課し、福祉の充実も国の義務でなく国民の義務としています。そして天皇や家族、伝統などを人権より大切にす復古的な色彩が異常に濃厚なものです。一方、経済成長を掲げるなど、異様な姿に「強烈な違和感」「時代錯誤」「品のなさ」などと多くの批判が各方面から巻き起こっています。（裏面へ続く）

